

日本唯一の広告ミュージアム **アドミュージアム東京** が **広告の歴史資料＝江戸時代の錦絵、古典籍など682点＝を** **オンライン公開**

概要

公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団 アドミュージアム東京と国文学研究資料館（以下、「国文研」）は、アドミュージアム東京が所蔵する錦絵、古典籍（江戸時代以前の本）の一部682点の高精細デジタル化に取り組み、令和4（2022）年12月1日（木）に公開しました。

アドミュージアム東京が所蔵する錦絵、古典籍の高精細デジタル画像の一括公開は今回が初となります。特に、ピーター・ドラッカーに「マーケティングの原点は日本の江戸にあり」といわしめた江戸時代の広告は、現在の広告コミュニケーションに通じる手法も多くみられます。今回公開した資料を通じて、企業や商品のアピールにとどまらない、広告コミュニケーションの社会的・文化的価値への理解を深めるとともに、江戸時代を中心とする日本文化研究への寄与を期待しています。



錦絵「駿河町越後屋」1830～1844年（天保期） (<https://doi.org/10.20730/100388086>)

最新のファッションを伝えた錦絵

越後屋店頭に3人の美女を配した華やかな錦絵。呉服商の越後屋は、日本橋駿河町（現・日本橋室町）に大店を構え、江戸名所の一つでもあった。店頭立派な建て看板や「丸に井げた三文字」と呼ばれるマークが大きく染め抜かれた暖簾が、当時の繁盛ぶりを示している。着物にはその年の新作が描かれているといわれ、今のファッション誌やポスターのような役割も果たしていた。

本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館
 古典籍共同研究事業センター事務室 管理係
 E-mail: cijinfo@nijl.ac.jp
 TEL: 050-5533-2988 / FAX: 042-526-8883
<https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/>

公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団
 アドミュージアム東京
 E-mail: yuri.yoshino@admt.jp
 TEL: 03-6218-2500 / FAX: 03-6218-2504
<https://www.admt.jp/>



公開資料のご案内



錦絵「江戸香 広到香 御はみがき」1825年（文政8）

<https://doi.org/10.20730/100387992>

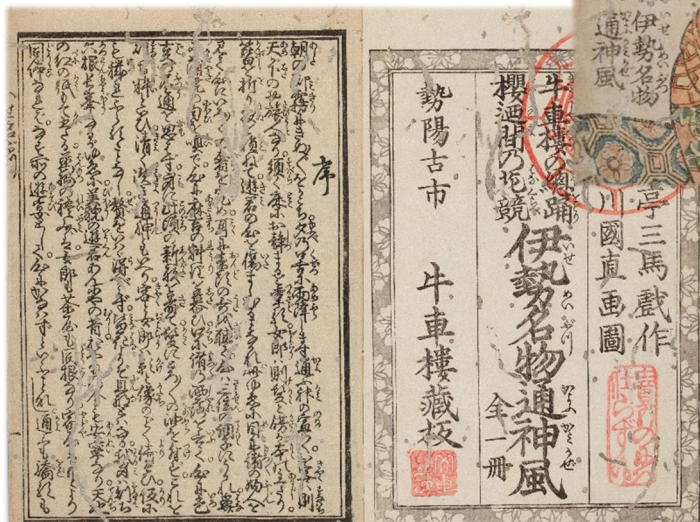
幕間はコマースタイム

歌舞伎演目の幕間に歯磨き粉の口上を述べる7代目市川團十郎と岩井紫若（いわいしじゃく）の姿が描かれている。

『伊勢名物通神風』1818年（文化15）

<https://doi.org/10.20730/100383006>

江戸の吉原、京の島原と並び称された伊勢古市（ふるいち）遊郭の「牛車楼備前屋（ぎゅうしゃろうびぜんや）」をとりあげた式亭三馬作の景物本。市販された書物ではなく、牛車楼が顧客や縁者に配布したもの。



錦絵「美艶仙香 潮くさき美人やふねの朝霞」1818～1830年（文政期）

<https://doi.org/10.20730/100388146>

仙香は江戸・京橋で売り出された粉白粉。製造している坂本氏は様々なメディアを使って巧みな宣伝活動を展開したことで知られた。溪斎英泉の描いたこの錦絵は5枚組で、どれも「美艶仙香といふ 坂本氏のせいする白粉の名高きに美人をよせて」という宣伝文句とともに狂歌が読まれている。


公開サイト：新日本古典籍総合データベース：

<https://kotenseki.nijl.ac.jp>

アドミュージアム東京の公開作品リストはこちらから

<https://kotenseki.nijl.ac.jp/page/list-admc.html>

アドミュージアム東京および国文学研究資料館のご紹介



アドミュージアム 東京

アドミュージアム東京は広告をテーマにした博物館で、広告に関する研究助成活動を行う公益財団法人吉田秀雄記念事業財団により、平成14（2002）年12月に開館しました。今年20周年を迎えます。

電通本社ビルに隣接するカレッタ汐留の地下1、2階の本施設では、江戸時代から現代まで約33万点の収蔵資料を誇り、主として広告に関する展示を行うほか、和書約1万2千冊、洋書約2千7百冊の蔵書を有するライブラリーを併設しています。

ライブラリーは地下1階にあり収蔵する広告作品や資料のデジタルデータを視聴できます。地下2階の展示スペースは、日本の広告の歴史を見ることができる「常設展示」と、国内外のさまざまな広告賞展や特別企画を展示する「企画展示」に分かれ、年代ごとの世相、風俗に関する展示、きもちごとにキュレーションされた視聴ブース「4つのきもち」のほか、タッチ式の大型モニターで広告資料が閲覧できる「デジタルコレクションテーブル」などがあります。

【公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団】

<http://www.yhmf.jp/>

【アドミュージアム東京】

<https://www.admt.jp/>



国文学研究資料館は、国内各地の日本文学とその関連資料を大規模に集積し、日本文学をはじめとする様々な分野の研究者の利用に供するとともに、それらに基づく先進的な共同研究を推進する日本文学の基盤的な総合研究機関です。

平成26（2014）年度からは、人文系では初の大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」がスタートしており、国文研が中心となって国内外の大学等と連携し、日本語の歴史的典籍のデジタル化と、国際共同研究ネットワークの構築を推進しています。

【国文学研究資料館 ホームページ】

<https://www.nijl.ac.jp/>

【日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画】

<https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/>